

# 勝ちました



## 【15～17歳男子の部優勝 山口泰知(日章学園高3年)】

勝負はプレーオフに持ち込まれた。「負ける流れだったので気楽にいきました。負ける覚悟でした」。開き直りとも取れる気持ちの持ちようが初優勝につながったかもしれない。出利葉に2打差をつけての最終18番ロング。ここで山口は3パットのボギーをたたき、バーディーの出利葉に並ばれてしまう。迎えたプレーオフ2ホール目の11番ミドル。出利葉の第1打は左の木に当たり、ラフへ。力が入りすぎたのか、第2打はグリー左奥のOBゾーンへ。セカンドをグリーン手前に置いていた山口が3打につけてパーパットを沈めた。自身3度目のプレーオフで、通算成績は2勝1敗となった。

「相手のミスで勝てたようなものです」と出利葉を気遣うが、今年は勢いに乗る。3月の九州高校ゴルフ選手権春季大会で優勝し、全国大会でも7位入賞。得意はパットという。優勝のご褒美として8月29日からの男子プロツアー「RIZAP KBCオーガスタ」への出場も決定。「どれくらい通用するのか」と胸を膨らませる。その2週間前の14日からは2020東京五輪のゴルフ会場となる霞ヶ関CC(埼玉県川越市)で日本ジュニアが開

かれる。「今後、回ることがないかもしれません。回るのが楽しみです。優勝を目指します」と力強くV宣言した。

### 【15～17歳女子の部優勝 竹田麗央(熊本国府高1年)】

最終日は素晴らしいゴルフを展開した。首位から3打差、10番スタートの竹田は18番のバーディーでトップに追いついた。アウトは勢いに乗った。1番でOKバーディーの直後の2番で5<sup>ホール</sup>、6番7<sup>ホール</sup>、8番では13<sup>ホール</sup>のバーディーパットを沈めるなど5バーディー、ノーボギーの31。結局、最終日は9バーディー、2ボギーの65という自己ベストタイをマークして2位に4打差の圧勝劇。4月から変えたヘッドが四角い箱型のパターが威力を発揮した。「すごく転がりがいいんです」と笑顔を見せた。

「優勝は狙っていました。このコースは景色もいいので好きです」と優勝がプラスされて、もっと好きになったようだ。叔母はかつて賞金女王に輝いたこともある女子プロの平瀬真由美。母は女子プロの平瀬哲子という中で育った。いつも身の周りにはゴルフが存在していたわけだ。

日本ジュニアは中2. 中3に続いて3度目の出場。「去年は初日良くて、その後、崩れた。守りに入ってしまった。その経験を生かして上位に入りたい」と意気込んだ。



### 【12～14歳男子の部優勝 古川創大(日章学園中3年)】

初日の4アンダー68がものを言った。最終日は「前半は3パットが3回もあって悪い流れでした」と振り返るように9番ロングでも第1打を右OBしてのダブルボギーなどもあって39。インは何とか2バーディー、2ボギーのパープレーでしのいだ。「(初日の)貯金があって良かった。九州1になりたかったし、うれしい」と素直に喜んだ。

中3ながら身長183 $\text{cm}$ 、体重71 $\text{kg}$ と体格に恵まれている。足の大きさは29 $\cdot$ 5 $\text{cm}$ 。父親は183 $\text{cm}$ 、母親も172 $\text{cm}$ で両親はともにスポーツ選手だった。得意なクラブは「ラインを出せる」とPWと9I。日本ジュニアは昨年に続き2度目となる。「去年は自分のゴルフができずに1日目で落ちました。今年は結果を出したい」と大きく胸を張った。

### 【12～14歳女子の部優勝 外園華蓮(日章学園中3年)】

このコースとは余程相性がいいのだろう。3日間で2度のホールインワン。それも2度目は本番の「ここぞ」という場面で達成した。インからのスタートで前半を2バーディー、2ボギーのパープレーでターンし、3番ショートでバーディーを奪い、迎えた7番ショート(163 $\text{yd}$ )。「あまり得意ではない」という6Iでエースを決めた。「ピンまっすぐに飛んでオーバーかな、と思っていたら、同じ組の人が『入ってる』と」。結局、この一発が効いて2位に2打差で初優勝を飾ることになる。大会前日の練習では3番(165 $\text{yd}$ )でも6Iでホールインワン。今後6Iは大好きクラブになるかもしれない。

「去年は最終組で回ったけど、ダメでした。去年は悔しくて、今年は絶対優勝しよう、と思っていたので、うれしい」。中学では初出場となる日本ジュニアに向けては「アプローチが苦手なので、これを練習して臨みたい」と小技を磨く。